

審査委員会特別賞

八王子市立七国中学校 太陽学級

活動の内容 (概要)	株式会社榮太樓總本舗(和菓子屋)の200年続く歴史や商品について、特別支援学級の生徒が、校外学習(本店見学、工場見学)を中心に学びを進め、「働くこと」の意義や責任などを理解。その後、地元の特産物を扱った榮太樓總本舗の商品「八王子キャンディー」のパッケージ開発を行い、商品の販売を経験した。実際の会社を想定し、個々の得意を活かすため3つの部署を創設して、それぞれが果たす立場や役割を考えながら課題解決に向けて協働し、社会参加することができた。
審査委員コメント	<p>・小学校・中学校の特別支援学級の児童生徒が挑戦する姿が目に見え、心に響く取組である。地域の老舗企業と連携し「ホンモノの学び」を追究してきた姿勢は非常に素晴らしい。企業にアポイントを取るために電話をかける生徒の緊張感や、それを見て「自分もやってみたい」と感じた生徒の姿には大きな成長が感じられる。企画を進める過程でグラフィックデザイナーや企業の広報担当者に関わることで、生徒はもちろん、関わった大人や企業側にも多くの学びと気づきがあったと想像される。今後の展開が非常に楽しみ、可能性に満ちた取組である。</p> <p>・七国中学校の取組では、特別支援学級を中心に地域が一つになって支え合う姿が印象的である。生徒は自分の得意を活かして商品を作り、販売や地域イベントで多くの人と関わっている。その中で誰かの役に立てる喜びを実感しているように感じられる。先生方もできることを見つけ伸ばす支援を丁寧に行っており、安心して挑戦できる環境づくりがされている。地域の人々も学校の活動を温かく見守り、共に育ち合う関係が築かれていることが伝わってくる。一人ひとりの成長を丁寧に支えるこの取組は「共に生きる」社会の形を教えてくれる。今後もこうした優しい学びの輪が地域全体に広がっていくことが期待される。</p> <p>・スタート間もない中で質の高さを感じる取組である。学校で知識を学ぶ意味を見出すことは将来への大きな布石となる。自らの取組が商品という形になり販売する、架空の会社で実務的な仕事をする、これらは実に得難い体験である。多様な専門家の協力も「ホンモノの体験」である。学年ごとの段階的かつ継続的な展開、実社会へ直結する取組、まだ1サイクルの展開ではあるが今後が楽しみである。</p>
連携・協働している 機関や団体、組織	<p>教育関係者(学校、教育委員会等)</p> <p>八王子市立七国中学校 太陽学級(特別支援学級) 八王子市立七国小学校 ひばり学級(特別支援学級)</p> <p>行政(首長部局等)や地域・社会(NPO法人やPTA団体等)、産業界(経済団体や企業等)</p> <p>株式会社榮太樓總本舗 七国地区学園都市構想(地域の教育機関(保・幼・小・中・高・大学及び学童)、企業、自然団体、教育行政等がチームとして協働し地域連携でキャリア教育と街づくりを推進する組織) 岡常商事株式会社</p>
活動開始の経緯	<p>令和6年度より、地域で学校の学び(特にキャリア教育)を支える組織である「七国地区学園都市構想」が始動した。地域の27団体が加入しており、今後も拡大が予想される。</p> <p>特別支援学級の生徒は中学校を卒業すると特別支援学校高等部に進学する者がいる。高等部で3年間学び、その後就労していく。中学校を卒業した生徒の保護者からは、中学校段階からの身の整理や報告・連絡・相談、挨拶、基本的な生活習慣が非常に大切であると教わる。卒業した生徒からも「中学校で先生方が言っていたことの重要性を高等部に進んでから感じる」との感想を聞く。実際に「働く」「就労」という大きな壁に直面することで、気付くことが多いようである。</p> <p>そうした声から、現在の中学校ではホンモノの「働く」ということ、学ぶことと自己の将来とのつながりに見通しをもつことが難しいのではないかと考えられる。生徒は教科学習だけでは、なぜそのスキルや知識を学んでいるのか理解しにくい。科目ごとに分断されている内容の本質を捉え、学校で学んでいるスキルや知識を応用する練習をする必要があると考えられる。しかし、残念ながら学校の中だけでこれを学ぶことは難しい。</p> <p>そこで、七国地区学園都市構想に参加している地域・企業等に協力を得て、体験活動を通して子どもたち自身が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力に気づき、各教科での知識の獲得に意味を見出すキャリア教育の充実をねらいとした。令和6年度中に関係者との計画が立てられ、令和7年度より授業が展開されていった。</p>

活動の内容	協力性についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>本取組は、令和6年度に発足した「七国地区学園都市構想」の一環として、中学校特別支援学級が主体となり実施したものである。七国地区学園都市構想は小中学校運営協議会を母体とし、教育機関（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学及び学童）、企業、自然団体、教育行政等が協働して子どもの成長を包括的に支えることを目的としている。</p> <p>その枠組みの中で本学級は、榮太樓總本舗とのコラボレーションにより、実社会に接続した学習を展開した。岡常商事株式会社や地元デザイナー、PowerPointデザイナーなど多様な専門家も加わり、生徒の学びを高度化した。八王子市、東京家政学院大学も構想の一員として後方支援を行い、12月5日には大学での発表会にて成果報告を実施した。</p> <p>生徒は「Sunshine Company」という架空の会社を設立し、総務・デザイン・プレゼンといった役割分担を通して得意を活かし、協働的に活動した。榮太樓總本舗は商品開発というリアルな課題を提供し、デザイナーは表現を支援し、大学は発表の場を提供し、行政は地域的広がりを後押しするなど、各機関が自らの強みを発揮している。</p> <p>七国地区学園都市構想の理念を土台としながらも、本学級独自の挑戦として「ホンモノの学び」を実現した点に特色がある。</p>
	継続性についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>七国地区学園都市構想の枠組みの中で展開された特別支援学級の挑戦は、単発に終わらず継続を意識した仕組みが組み込まれている。小学校では低学年の町探検及び中学年の総合的な学習の時間で会社見学を行い、高学年では家庭科においてお茶と和菓子に関する講演を受け、お茶と羊羹を食べることで地域の企業を身近に感じる経験をしている。</p> <p>これを受け、中学校では1学期に会社組織の立ち上げや見学学習を通じて土台を築き、2学期にはデザイン完成・審査・商品化・販売促進へと段階的に展開した。活動の成果は大学発表会で報告され、外部からも評価を受けた。さらに、次年度は八王子市と連携し、七国地区から八王子市へと地域課題解決をテーマに取組を広げる構想がある。</p> <p>活動後には生徒アンケートや保護者・地域アンケート等を実施し、成果と課題を整理して次年度の改善につなげている。こうしたPDCAサイクルを明確に意識することで、学級の実践が構想全体にも波及し、長期的なキャリア教育の継続性を担保している点が特徴である。</p>
	実践性についての具体的な取組、工夫している点など
	<p>特別支援学級の生徒が社会との接点を実感できるよう工夫された実践である。七国地区学園都市構想の枠組みを活用し、榮太樓總本舗とのコラボ企画により、商品パッケージ開発・販売促進・原材料学習など「実社会と直結した学び」を体験することができた。社会参加が大切な目標の一つである特別支援学級において、得意を活かした役割分担を行い、互いの違いを尊重しながら協働することを重視した。</p> <p>活動は段階的に広がり、企業見学・特別授業・デザイナーとの協働を経て、デザインの完成や商品化に至った。さらに、生徒からの提案を受けて原材料である砂糖の学習や小学校特別支援学級との交流も行い、小・中学校で切れ目のないキャリア教育の展開が実現している。学校の学習が社会で役立つ実感を得られる教育実践となった。</p> <p>また、さまざまな経験を通じて、日頃の学校生活におけるあいさつや返事、掃除といった活動の大切さを感じることができた。加えて、地域情報紙やラジオ番組への生出演による発信を通じて、地域住民へ活動を周知した。地域の教育力を学校に取り込みつつ、学校から地域へも発信する双方向の実践となっている。地域と学校双方のニーズを満たし、キャリア教育の推進を下支えする取組である。</p>
発展性についての具体的な取組、工夫している点など	
<p>今回の取組は、特別支援学級の挑戦であると同時に、七国地区学園都市構想の中で地域全体に波及する発展性をもっている。榮太樓總本舗とのコラボ商品「八王子キャンディー」は期間限定で販売され、地域住民に広く周知された。これにより、生徒の学習が地域経済等にもつながり、地域社会に開かれた教育となった。</p> <p>地域情報紙やラジオ番組での発信、11月の地域合同コンサートでの活動の紹介と販売を通じて、教育活動が地域イベントの一部として位置づけられた。さらに、12月には東京家政学院大学で成果発表を行い、大学関係者や連携高等学校教員にも報告したことで、他校や高等教育機関への広がりが期待される。</p> <p>次年度以降は八王子市と連携し、地域課題解決をテーマに発展させる計画があり、地域全体でキャリア教育を推進する機運を醸成している。小学校との連携強化を通じて、小・中学校で切れ目のないキャリア教育体系の形成を目指している。</p> <p>特別支援学級の小さな実践から始まり、地域・社会全体に波及していく発展性をもつ大きな価値ある活動であると捉えられる。</p>	

活動の内容	<p>その他</p> <p>中学校特別支援学級の子どもたちが地域の老舗企業である榮太樓總本舗とつながり、「ホンモノの学び」を追究できたことに大きな意味があると思う。子どもたちは自分たちの役割を意識し、仲間と協働しながら課題に取り組む姿を見せた。</p> <p>特に印象的だった場面がある。総務部の生徒が勇気を出して先方に電話をかけ、緊張しながら講師による特別授業の日程を確定させた。その姿を見ていた他部署の普段は消極的な生徒が「自分もやってみよう」と発言した。前向きに挑戦する他者の姿に刺激を受けて主体性が育つ瞬間であり、人間の成長過程を象徴するものであった。</p> <p>こうした姿からは、正解の決まっていない問いに自ら挑み、仲間と力を合わせて答えを見つけ出そうとする探究心の芽生えが感じられた。また、子どもたちの挑戦を温かく受け止め、活動の場を提供くださった榮太樓總本舗をはじめ、地域の理解と協力があつたからこそ、この取組は実現した。今回の取組は規模の大きさではなく、子ども一人ひとりの成長の深さと、地域とともに学ぶことに意義があると思う。今後もこの経験を礎に、子どもたちが自ら未来を切り拓いていけるよう、地域と手を携えて学びを積み重ねていきたい。</p>
学校現場の評価・感想・コメントなど	<p>【七国小学校 校長】</p> <p>学校運営協議会で協議を重ね創り上げた「地域連携の新たな仕組み」(七国地区学園都市構想)を有効に活用した実践は、地域の校種や業種を超えた持続的かつ実効性のある未来の地域連携型キャリア教育の形である。地域の大人が産・学・行政、校種等の垣根を超えて子どもの学びに対し最大限の協働体制を築き、「ホンモノ」に出会う場と、関わる全ての人の「本気」を生み出す取組は、未来に挑戦する子どもの可能性とともに地域の可能性を最大限に広げていく取組であると思う。</p> <p>【七国中学校 校長】</p> <p>豊かな地域資源のある七国地区。令和6年度より七国地区学園都市構想として、地域、企業、教育関係機関等が様々な形で連携しながら地域の活性化を図る取組を行ってきた。本校でも、職場体験の学びやつながりを持続可能な学校・地域協働による活動へと一歩踏み込んだキャリア教育の実践と捉え、地域企業と連携したコラボ企画を計画して進めてきた。それが株式会社榮太樓總本舗とのコラボ企画「商品パッケージ開発プロジェクト」である。</p> <p>生活単元学習・キャリア教育として教育課程に位置付け、探究学習の過程を経て作成したパッケージデザインのプレゼンテーションは、生徒の可能性を最大限に引き出し、自己有用感を十分に感じ取れる内容であった。今回の挑戦ともいえる生徒の活動を足がかりとして、さらに自身の発想や思考、主体的な判断を通じてキャリア形成を育む実践的なキャリア教育を展開していきたい。</p>
関係諸機関からの評価・感想・コメントなど	<p>【株式会社榮太樓總本舗】</p> <p>小学校・中学校在学時から将来のキャリアを生徒自身に考えさせる学園都市構想の取組は大変素晴らしいものであり、将来的には七国地区のみならず多くの地区でも取り入れるべきであると感じている。今回、我々企業側から生徒に複数回にわたり講義を行ったが、子どもたちから出てくる柔軟な発想や物事一つひとつの受け取り方など、普段の企業活動からでは得ることのできない学びが多くあつた。本取組によって生徒が自身の成長を感じ取ることができ、学校・企業がそれぞれ新しい気付きを得ることのできた大変貴重な機会であったと実感している。取組を企画立案くださった七国中学校、サポートしてくださった七国地区学園都市構想の関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。今後さらに発展した取組が展開されることを期待している。</p> <p>【学校運営協議会 会長】</p> <p>このプロジェクトは、特別支援学級の生徒が自らの個性や才能を生かして社会と関わるという貴重な機会となった。当初は戸惑っていた生徒も、プロの指導の下で試行錯誤を重ねて完成させたデザインが実際に商品となり、店頭で並ぶことが決まった時の感動は計り知れない。大きな達成感と自信が満ち溢れていた。まさに「働くことの楽しさややりがいを実感する、生きたキャリア教育そのもの」であると言える。この成功は、学校と地域企業が一体となって子どもを育てることの重要性を改めて示した。今回の経験は教職員にとっても大きな学びとなり、地域との連携の可能性を広げるものとなったと思う。今後も本プロジェクトを一つの成功モデルとして、さらに多くの企業や団体との協働を深め、地域社会全体で子どもの未来を創造するキャリア教育を推進していくことが期待される。</p>
活動の今後の展望	<p>八王子市獣害対策課と連携し、地域の課題解決をテーマに取組を広げる構想がある。地域の困りごとを子どもたちが柔軟な発想でポジティブなものへ変換し、実際の形にしていく。イメージを形にする過程で地域と積極的に連携し、働くことの意義とともにその大変さや難しさを経験する。将来必要となる学びを今の学校で行っていると実感できるよう、学びに意義をもたせる活動を今後も計画していく。</p>



「八王子キャンディー」の新パッケージ案を地域のグラフィックデザイナーと打ち合わせをしている様子。

活動の様子



採用された3デザインが株式会社榮太樓總本舗八王子工場売店で販売